

〈レーザ加工機〉

三菱電機のレーザ加工機に関する
最新技術と適用事例

井上 孝*

三菱電機(株) 産業メカトロニクス製作所 レーザ製造部加工技術課 課長

三菱電機は2019年より二次元レーザ加工機の最新機種としてGX-Fシリーズを販売、製造している。発売開始以降、テーブルサイズ、発振器出力の異なるラインアップを拡充しユーザーズに
応えてきた。また、2020年にはプレス成形品などの立体部品の切断用途向け三次元レーザ加工機としてFVシリーズを開発、販売開始している。2021年には先端材料として注目されているCFRP(炭素繊維強化プラスチック)の切断に特化した専用レーザ加工機CVシリーズを製品化した。

本稿では、レーザ加工機に関する当社の最新技術と適用事例について紹介する。

二次元レーザ加工機 GX-F シリーズ

当社ファイバーレーザ加工機GX-Fシリーズ(図1)は、定格出力4~10kWの発振器と2種類のテーブルサイズ(3.0×1.5m、4.0×2.0m)の組合せからなる8機種をラインアップしている。厚さ1.0~25mmの軟鋼、ステンレス、アルミ



図1 二次元レーザ加工機 GX-F シリーズ

*いのうえ たかし